

Pioneer *sound.vision.soul*

MDLP



MD/チューナー・DSPメインユニット

MEH-P077

取扱説明書

目次 4ページ

carrozeria

必ずお読みください

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- 表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



注意

このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



禁止

このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



必ず行う

このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意 (別冊の「安全上のご注意」もお読みください。)

警告

[使用方法]

運転中に操作をしない



禁止

画面を長く見る必要がある複雑な機能は、自動車の運転中に操作をしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。操作は、必ず安全な場所に車を停車させて行ってください。また運転中、画面を注視する時間は必要最低限としてください。

[異常時の処置]

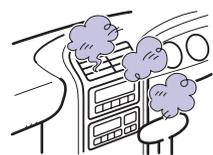
故障のまま使用しない



禁止

画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



禁止

万一、煙が出る・変なおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



必ず行う

ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

目次

— CONTENTS

必ずお読みください

安全のために必ずお守りください 2

- 絵表示について
- 安全上のご注意

はじめに

各部のなまえ 6

- 本体
- リモコン

リモコンの準備 8

バッテリー上がりを防ぐために 8

ガイド表示について 9

50枚型マルチCDプレーヤーの
使用について 9

長時間録音されたMDの
再生について 9

本機の基本操作

本機の基本操作 10

内蔵MDでMDを聞く

内蔵MDの基本操作 12

モードの切り換えかた 15

同じ曲を繰り返し聞く 16

いつもと違う曲順で聞く 16

聞きたい曲を探す 17

MD再生を一時停止する 18

MDのタイトルを表示させる 19

ラジオを聞く

ラジオの基本操作 20

複数の放送局を
自動的に記憶させる 22

放送局を1局ずつ記憶させる 23

記憶させた放送局を呼び出す 24

放送局名を選ぶ 24

マルチCDでCDを聞く

マルチCDの基本操作 26

モードの切り換えかた 28

同じ曲やCDを繰り返し聞く 29

いつもと違う曲順で聞く 30

聞きたい曲やCDを探す 30

聞きたい曲だけ記憶させておく 32

記憶させた曲だけ再生する 33

記憶させた曲を
1曲ずつ記憶から消す 33

記憶させた曲を
CDごと記憶から消す 34

CDのタイトルを記憶させる 35

CDのタイトルを表示させる 37

「CD TEXT」のタイトルや
歌手名を表示させる 38

タイトルを見て
聞きたいCDを探す 39

CD再生を一時停止する 40

CDの音質を調節する 41

音を調節する

調節モードの切り換えかた	42
●RCA 外部出力がサブウーファー出力 “P/O :S/W” のとき	
●RCA 外部出力がノンフェーディング出力 “P/O :FUL” のとき	
前後左右の音量	
バランスを調節する	44
小音量時の音に	
メリハリをつける	44
サブウーファーを使う	45
低い音をスピーカーから出力 させないようにする	47
外部アンプなどでサブウーファーを 調節する	49
各ソースの音量の 違いをそろえる	50

音場と音質を調節する

モードの切り換えかた	52
イメージに合った演奏会場を 再現する	52
イコライザーカーブを選ぶ	54
●EQ ボタンで選ぶとき	
●DSP 調節モードで選ぶとき	
イコライザーカーブを 大まかに補正する	55
イコライザーカーブを 細かく調節する	56
音場の中心で聞く	58
騒音に合わせて音量を変える	59

その他の機能

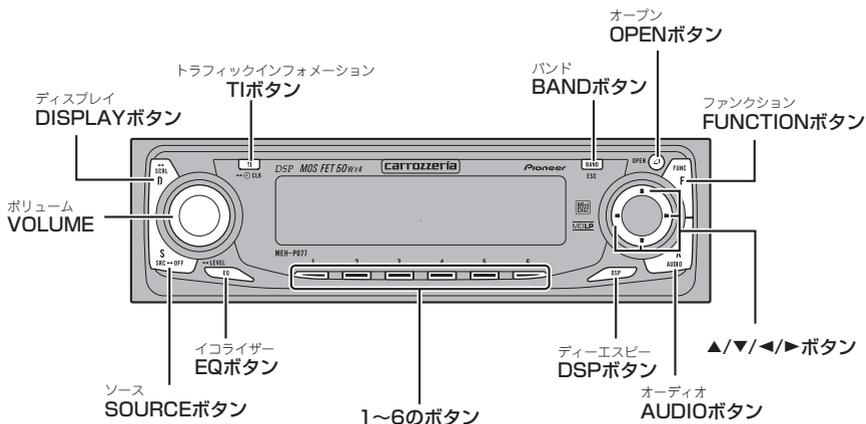
瞬時に音量を小さくする	60
時計を表示させる	60
交通情報を受信する	61
レベルインジケーターを 切り換える	62
初期設定モードの切り換えかた	63
時計を合わせる	63
外部機器の音声を聞く	64
外部機器の名称を入力する	65
夜間のディスプレイの 明るさを切り換える	65
RCA 外部出力から 出力される信号を選ぶ	66
音の歪みを補正する	66
ミュート/アッテネートを 切り換える	67

付録

MD の正しい使いかた	68
●使用できる MD について	
●取り扱い上のご注意	
●ラベルについて	
●保管上のご注意	
●お手入れについて	
●寒いときの結露について	
故障かな?と思ったら	70
●共通項目	
●ラジオ	
●MD	
こんなメッセージが 表示されたら	72
保証書とアフターサービス	73
おもな仕様	74

各部のなまえ

■ 本体

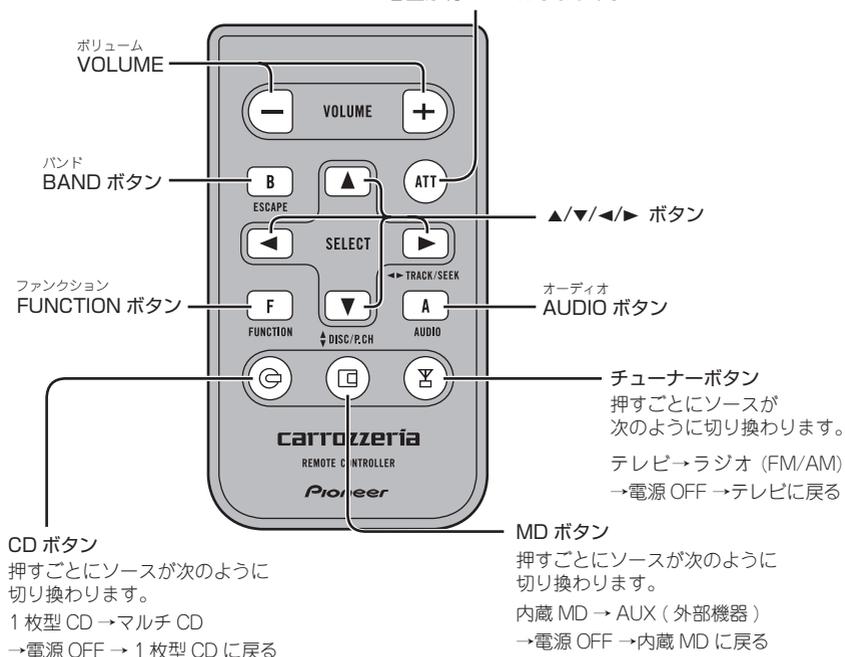


■ リモコン

各ボタンは、本体の同じなまえのボタンと同じ働きをします。

ATT ボタンは、リモコンだけに付いているボタンです。

アッテネーター
ATT ボタン (60 ページ)
押すごとにアッテネーターが ON/OFF
します。アッテネーターが ON のときは、
音量が約 1/10 になります。



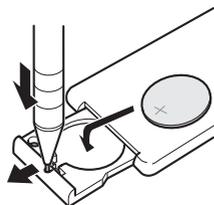
- ・ 別売のステアリングリモートコントロールユニット「CD-SR100」(以下、ステアリングリモコン) で本機を操作することもできます。ただし、この場合は、一部リモコンでは操作できない機能があります。
- ・ ステアリングリモコンの操作のしかたや取り扱いについては、ステアリングリモコンの説明書をお読みください。

リモコンの準備

付属のリモコンを使うための準備です。

リモコンに電池を入れる

電池ホルダーを引き出し、リチウム電池 (CR2025) を図のようにセットします。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。

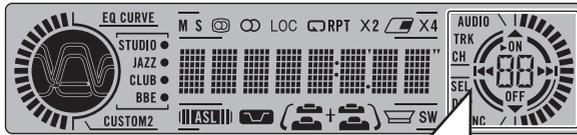
- ・ リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障する恐れがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- ・ 本体に直射日光が当たっていると、リモコンの操作ができないことがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。
- ・ 付属の電池は、充電しないでください。
- ・ リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。
- ・ 電池の液もれが起こったときは、内部についた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。
- ・ 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

バッテリー上がりを防ぐために

本機を使用するときは、必ず車のエンジンをかけてください。また、本機が電源 OFF のときでも、車のエンジンを止めた状態で長時間、車のイグニッションスイッチを ON (または ACC) にしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

ガイド表示について

本機の操作を行っているとき、ディスプレイを見て操作ができるように、ディスプレイにガイド表示が出ます。



▲/▼/◀/▶ ボタンの中で、操作可能なボタンが表示されます。

表示の例

内容



▲/▼/◀/▶ ボタンで操作できます。



▲または▼ボタンで機能のON/OFFができます。



▲または▶ボタンで項目を選ぶことができます。

50枚型マルチCDプレーヤーの使用について

本機では、50枚型マルチCDプレーヤーの取扱説明書に記載されている50枚型マルチCDプレーヤー特有の機能を操作することはできません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能のみです。

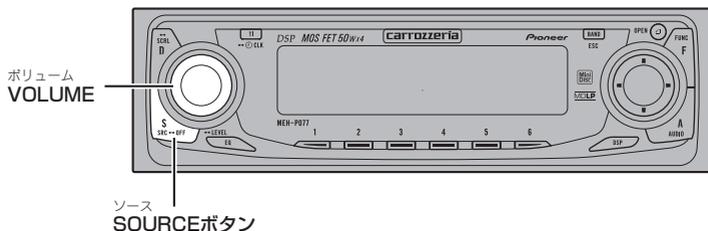
長時間録音されたMDの再生について

本機は、MDLPに対応しています。長時間録音されているMDも再生することができます。

MDLPについて

MDLPとは、今までお使いになっているMDで、従来より長時間(2倍、4倍の時間)録音することができる圧縮方式です。

本機の基本操作



本機の基本操作

電源 ON/ソース選択/音量調節/電源 OFF

ここだけの操作で、本機を使用することができます。

1 SOURCE ボタンを押して、電源を入れる

本機の電源がONになります。

- MDをMD挿入口に差し込んだときも、電源がONになります。(12ページ)



2 SOURCE ボタンを押して、ソース(音源)を切り換える

SOURCE ボタンを押すごとに、次のようにソースが切り換わります。

- ラジオ (FM/AM) → テレビ (別売)
- 1 枚型CD (別売) → マルチCD (別売)
- 内蔵MD → External (エクスターナルユニット 1) (別売) → External (エクスターナルユニット 2) (別売) → AUX (外部機器) (別売)
- ラジオ (FM/AM)に戻る



3 VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。
もう一度押すと、元に戻ります。

4 VOLUMEを回して、音量を調節する

右回し：大きくするとき

左回し：小さくするとき



0～40の範囲で調整できます。

約4秒間、音量が表示されます。

5 SOURCEボタンを1秒以上押して、電源を切る

電源がOFFになります。

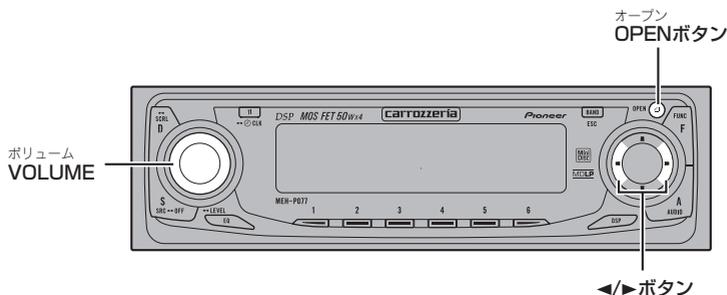
テレビ、1枚型CD、マルチMDを接続したときは

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

- ・ テレビ (例：「AVX-P777」)、1枚型CD (例：「CDS-P555」) の取扱説明書では、本機以外の製品を例にして、操作を説明している場合があります。その製品と対応しているボタンで操作を行ってください。
- ・ 本機は、マルチMD (例：「MD-P100II」) をエクスターナルユニットとして操作することができます。操作のしかたは、マルチMDの取扱説明書の「メインユニット③」を参照してください。

- ・ 接続していないソースには切り換わりません。
- ・ MDやCDがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。
- ・ 本機の青リード線 (オートアンテナ) に車側のオートアンテナのコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。
- ・ External (エクスターナルユニット) とは、本機がソースとして対応していないパイオニア製品 (将来発売される製品など) の基本的な機能をコントロールできるように用意している特別なソースです。本機では、2台のExternal (エクスターナルユニット) をコントロールすることができますが、External 1、External 2のどちらに切り換えても“External”が表示されます。2台のExternal (エクスターナルユニット) を接続した場合、本機によって、External 1、External 2が自動的に設定されます。
- ・ AUX (外部機器) の設定 (64ページ) をONにしないと、AUXには切り換わりません。

内蔵MDでMDを聞く

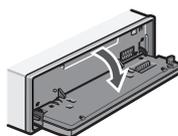


内蔵MDの基本操作

MD セット/選曲/早送り・早戻し/MD イジェクト

ここだけの操作で、MDを聞くことができます。

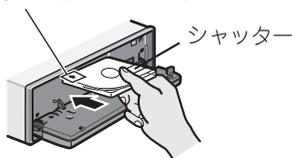
1 OPEN ボタンを押して、フロントパネルを開ける



2 MDのラベル面を上にして、MD挿入口に差し込む

矢印の向きに差し込みます。

- MDのシャッターが閉まっていることを確認してから差し込んでください。

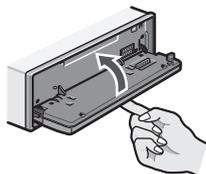


・ MD挿入口には、MD以外の物を絶対に入れないでください。故障の原因となります。

3 フロントパネルを閉める

MDの再生が始まります。

- MDをセットしたときや、他のソースから内蔵MDに切り換えたときなどに、ディスクタイトル、曲名を自動的に1回スクロール表示します。



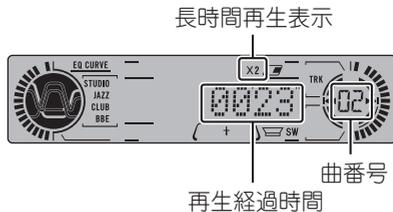
4 ◀または▶ ボタンを押して、聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻しをする)

- ▶ : 次の曲を選ぶとき (または早送り)
- ◀ : 前の曲を選ぶとき (または早戻し)

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5秒以上押し続けている間

- 曲を選んだときに、曲名を自動的に1回スクロール表示します。ただし、今聞いている曲の頭出しをしたときには、自動的にスクロール表示しません。
- 2倍長時間録音のMD再生時は、“×2”が、4倍長時間録音のMD再生時は、“×4”が表示されます。

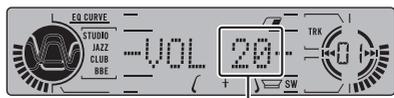


5 VOLUMEを押す

押すと手前に出てきます。
もう一度押すと、元に戻ります。

6 VOLUMEを回して、音量を調節する

右回し：大きくするとき
左回し：小さくするとき

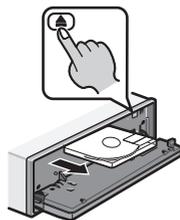


0~40の範囲で調整できます。
約4秒間、音量が表示されます。

7 OPENボタン、EJECTボタンを押して、MDを取り出す

MDが出てきます。

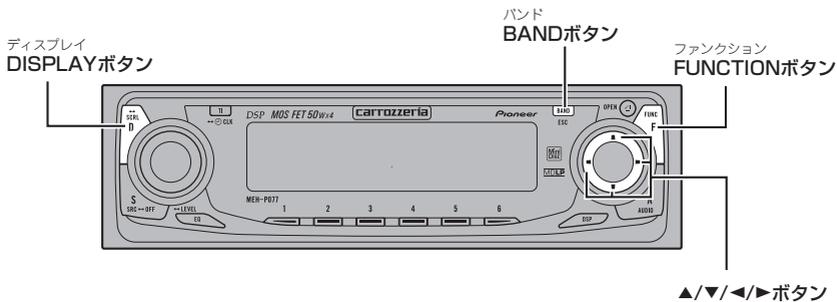
- 出てきたMDはすぐに取り出して、保管してください。



8 フロントパネルを閉める

- MD挿入口にゴミやホコリが入るのを防ぐためフロントパネルを閉めてください。

- ・ MDをセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース（ラジオやマルチCDなど）に切り換えることもできます。（10ページ）
- ・ MDを挿入すると、本機はMDからファイル形式などの情報を読みとります。この間、ディスプレイには“TOC Read”が表示されます。
- ・ TOC (Table Of Contents) とは、CD・MD・DATなどに収録されている曲数、演奏時間、タイトルなどの音声信号以外の情報のことです。



モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

■ ファンクションモードの切り換え

1 FUNCTION ボタンを押して、ファンクションモードを切り換える

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



- リピート再生 (16ページ) → ランダム再生 (16ページ)
- スキャン再生 (17ページ) → ポーズ (18ページ)
- リピート再生に戻る

・ ファンクションモードを解除するには、BAND ボタンを押します。(約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)

同じ曲を繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞きことができます。

- 1** FUNCTION ボタンを押して、リピートモードを選ぶ



- 2** ▲ ボタンを押して、リピート再生を ON にする

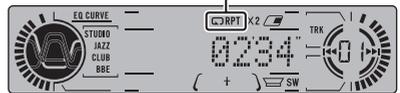
今聞いている曲を繰り返し再生します。

▼ ボタンで OFF になります。



- 3** BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

リピート再生中に表示されます。



いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲をMDプレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順（ランダム）で再生することができます。

- 1** FUNCTION ボタンを押して、ランダムモードを選ぶ



- 2** ▲ ボタンを押して、ランダム再生を ON にする

次の曲から、ランダムに再生します。

▼ ボタンで OFF になります。



- 3** BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

ランダム再生中に表示されます。



聞きたい曲を探す

スキャン再生

曲の始めの部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。

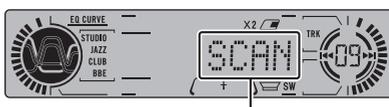
- 1** FUNCTION ボタンを押して、スキャンモードを選ぶ



- 2** ▲ ボタンを押して、スキャン再生をONにする

曲の始めの約10秒間が次々に再生されます。

- スキャン再生を始めて約30秒たつと、自動的にファンクションモードが解除されます。



スキャン再生中に表示されます。

- 3** 聞きたい曲が再生されたら、▼ ボタンを押して、スキャン再生をOFFにする

- ファンクションモードが解除されていたら、手順1の操作を行ってもう一度スキャンモードにしてから、スキャン再生をOFFにしてください。



- 4** BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

- ・ スキャン再生を始めた曲まで戻るとスキャン再生は解除されます。

MD再生を一時停止する

ポーズ

MD再生を一時停止することができます。

- 1** FUNCTION ボタンを押して、ポーズモードを選ぶ



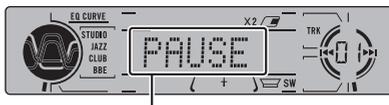
- 2** ▲ ボタンを押して、ポーズを ON にする

MD再生が一時停止します。

▼ ボタンで OFF になります。



- 3** BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除する



一時停止中に表示されます。

MDのタイトルを表示させる

タイトル表示/タイトルスクロール

再生経過時間の表示以外に、ディスクタイトル（ディスク名）やトラックタイトル（曲名）を表示させることができます。

ディスクタイトルやトラックタイトルは一度に8文字表示することができます。また、隠れている文字を順に表示させることもできます。

- 表示をディスクタイトルまたはトラックタイトルに切り換えたときに、隠れているタイトルを自動的に1回スクロール表示します。
- 本機はカナ文字に対応していますので、カナやアルファベットの小文字がそのまま表示されます。
- ディスクタイトルが入力されていない場合は、ディスクタイトル表示が“NO DATA”になります。トラックタイトルが入力されていない場合は、トラックタイトル表示が“NO DATA”になります。
- 本機では、MDの録音方法に関わらずトラックタイトルの先頭の「LP:」を表示しません。（長時間録音されたトラックタイトルの先頭には、「LP:」があらかじめ入力されている場合があります。）
- 本機は、MDのグループ機能に対応していません。グループ登録されたMDを再生すると、ディスクタイトルは、グループ名などを含めた状態で表示されます。

■ 表示切り換え

1 DISPLAY ボタンを押して、表示を切り換える

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



再生経過時間表示 → ディスクタイトル (DISC TTL) → トラックタイトル (TRK TTL)
→ 再生経過時間表示に戻る

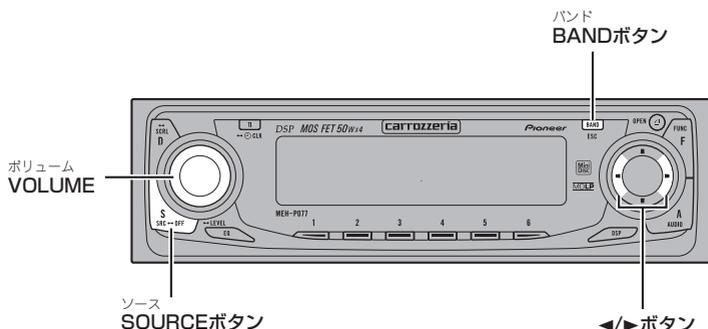
■ 隠れているタイトルを表示する

1 DISPLAY ボタンを2秒以上押して、隠れているタイトルを表示する



隠れている文字が順番に表示されていきます。

ラジオを聞く

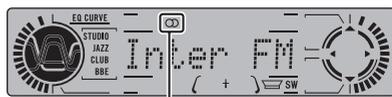


ラジオの基本操作

バンド切り替え/選局/音量調節

ここだけの操作で、ラジオを聞くことができます。

1 SOURCE ボタンを押して、ソースをラジオにする



ステレオ放送を受信すると表示されます。

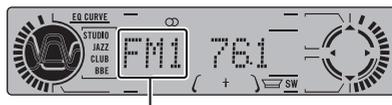
2 BAND ボタンを押して、バンドを選ぶ

ボタンを押すごとに、次のようにバンドが切り換わります。

FM1 → FM2 → AM1 → AM2

→ FM1 に戻る

- バンドごとに放送局を6局ずつ記憶できます。(22、23ページ)
- バンド1とバンド2を切り換えて使うことでより多くの放送局を記憶できます。
例えば、バンド1にはふたんよく聞く放送局を記憶させておきます。旅行先など、どんな放送局があるのか知らない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSMを使うと、バンド1に記憶させた放送局はそのままお使いになれます。



FM1 → FM2 → AM1 → AM2



3 ◀または▶ ボタンを押して、放送局を選ぶ

- ▶ : 高い周波数の放送局を選局するとき
- ◀ : 低い周波数の放送局を選局するとき

選局方法の使い分け

手動選局 (1 ステップずつ)	0.5 秒未満
自動選局	0.5 秒以上

- 0.5 秒以上押し続けている間、途中の放送局をとばすことができます。ボタンを離れたところから自動選局を開始します。
- 電波の強い放送局を選局するには、自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには、手動選局をおすすめします。



周波数表示



放送局名表示

- 周波数表示のあと、放送局名表示に切り換わります。
- DISPLAY ボタンを押すと、周波数表示と放送局名表示を切り換えることができます。

4 VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。
もう一度押すと、元に戻ります。

5 VOLUME を回して、音量を調節する

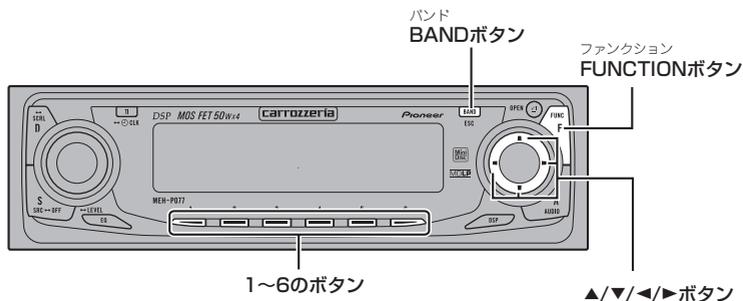
右回し：大きくするとき
左回し：小さくするとき



0~40 の範囲で調整できます。
約 4 秒間、音量が表示されます。

6 他のソースに切り換えるか、電源を OFF にして、ラジオの受信をやる (10 ページ)

- ・ 本機は、あらかじめ放送局名を記憶しています。ディスプレイに表示されている放送局名と受信している放送局名が異なるときは、受信している放送局名に変更することができます。(24 ページ)



複数の放送局を自動的に記憶させる

BSM

受信状態の良い放送局を探して、自動的に1~6ボタンに記憶させることができます。

- 1 BAND ボタンを押して、記憶させるバンドを選ぶ (20 ページ)

- 2 FUNCTION ボタンを押して、BSM モードにする



- 3 ▲ ボタンを押して、BSM を始める

記憶が終わると点滅が止まり、1 のボタンに記憶した放送局を受信します。

▼ ボタンで途中解除します。



記憶動作中に点滅します。

- 4 BAND ボタンを押して、BSM モードを解除する



受信中の記憶番号

受信中の放送局名

- ・ 受信状態の良い放送局が、6局より少ないときは、前の記憶が残ることがあります。
- ・ BSMとは、Best Stations Memory (ベストステーションズ メモリー) の略です。
- ・ 記憶させた放送局を呼び出すには (24 ページ)
- ・ BSMモードは、約30秒間何も操作しないと、自動的に解除されます。

放送局を1局ずつ記憶させる

プリセットメモリー

1～6のボタンに、お好みの放送局を、1局ずつ手動で記憶させることができます。

1 BAND ボタンを押して、記憶させるバンドを選ぶ (20 ページ)

2 ◀または▶ ボタンを押して、記憶させたい放送局を選ぶ (21 ページ)

3 1～6のボタンの1つを2秒以上押して、記憶させる



押したボタンの番号 (記憶番号) が点滅します。



記憶が終わると点滅が終わり、押したボタンに受信中の放送局が記憶されます。

ラジオを聞く

・ 記憶させた放送局を呼び出すには (24 ページ)

記憶させた放送局を呼び出す

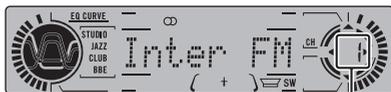
プリセットチューニング

記憶させた放送局は、簡単に呼び出すことができます。

■ 記憶させた放送局を直接呼び出すとき

1 BAND ボタンを押して、記憶させたバンドを選ぶ (20 ページ)

2 1～6 ボタンの 1 つを押して、記憶させた放送局を直接呼び出す



受信中の記憶番号

■ 記憶させた放送局を順番に呼び出すとき

1 BAND ボタンを押して、記憶させたバンドを選ぶ (20 ページ)

2 ▲ または ▼ ボタンを押して、記憶させた放送局を順に呼び出す。

- ▲ : 次の記憶番号の放送局を呼び出すとき
- ▼ : 前の記憶番号の放送局を呼び出すとき



受信中の記憶番号

放送局名を選ぶ

放送局名選択

受信している放送局に合わせて、表示する放送局名を選ぶことができます。

放送局名について

同じ周波数でも、地域によって受信する放送局は異なることがあります。表示されている放送局名が受信している放送局名と異なる場合、放送局名を変更することができます。

・ 本機に登録されていない放送局名は選べません。

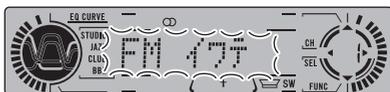
1 実際の放送局名と表示が異なる場合、FUNCTION ボタンを2秒以上押し、放送局名選択モードにする

- 現在受信している周波数以外の放送局名を変更することはできません。別の周波数の放送局名を変更したい場合、その周波数を受信して(21ページ)から放送局名選択モードにしてください。



2 ◀または▶ ボタンを押して、放送局名を選ぶ

- ▶ : 次の放送局名を選ぶとき
- ◀ : 前の放送局名を選ぶとき



受信中の周波数に該当する放送局名が点滅します。

3 ▲ ボタンを押して、放送局名を変更する

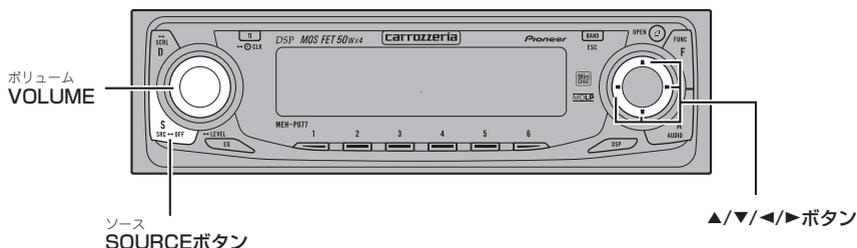
選んだ放送局名に変更されます。



4 BAND ボタンを押して、放送局名選択モードを解除する

- ・ 選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていないと、“NO DATA”と表示されます。
- ・ 放送局名を表示させたくないときは、“-----” (全て空白) を選んでください。
- ・ パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCD (「CDX-FM675」など) をお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を“FM M-CD”に変更して表示することができます。
- ・ パイオニア製のTVをFMモジュレーターでお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を“FMTV SND”に変更して表示することができます。

マルチ CD で CD を聞く



マルチ CD の基本操作

ディスク選択/選曲/早送り・早戻し

ここだけの操作で、マルチ CD プレーヤーで CD を聞くことができます。

1 SOURCE ボタンを押して、ソースをマルチ CD にする

- 「CD TEXT」に対応しているマルチ CD プレーヤー（「CDX-P670」など）に「CD TEXT」をセットしているときは、他のソースからマルチ CD に切り換えたときに、ディスクタイトルおよびトラックタイトルを自動的に 1 回スクロール表示します。



2 ▲または▼ボタンを押して、聞きたい CD を選ぶ

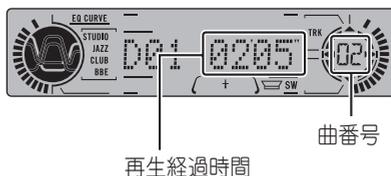
- ▲：次の CD を選ぶとき
- ▼：前の CD を選ぶとき
- 1～6 ボタンを押して、聞きたい CD を選ぶこともできます。7～12 枚目の CD を選ぶ場合、1～6 のボタンを 2 秒以上押します。



CD 番号

3 ◀または▶ ボタンを押して、聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻しをする)

- ▶ : 次の曲を選ぶとき (または早送り)
- ◀ : 前の曲を選ぶとき (または早戻し)



選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5秒以上押し続けている間

- 「CD TEXT」に対応しているマルチCDプレーヤー (「CDX-P670」など) で「CD TEXT」を再生しているときは、曲を選んだときに、曲名を自動的に1回スクロール表示します。ただし、今聞いている曲の頭出しをしたときには、自動的にスクロール表示しません。

4 VOLUME を押す

- 押すと手前に出てきます。
- もう一度押すと、元に戻ります。

5 VOLUME を回して、音量を調節する

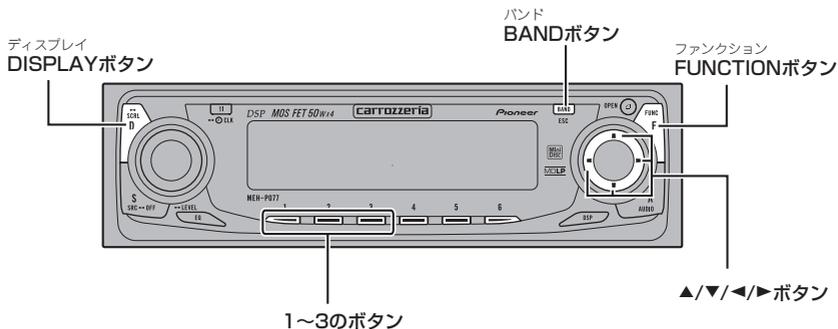
- 右回し : 大きくするとき
- 左回し : 小さくするとき



- 0~40の範囲で調整できます。
- 約4秒間、音量が表示されます。

6 他のソースに切り換えるか、電源をOFFにして、マルチCDの再生をやめる (10ページ)

- ・ マルチCDが準備動作 (CDの有無の確認やCDの情報の読み込みなど) をしている場合があります。このとき、ソースをマルチCDに切り換えると“Ready”が表示されます。
- ・ マルチCD再生中にマルチCDからマガジンを取り出すと、“No Mag”が表示されます。
- ・ 「CD TEXT」については (38ページ)



モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

■ ファンクションモードの切り換え

1 FUNCTION ボタンを押して、ファンクションモードを切り換える

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

- リピートモード (29ページ) → タイトルリストモード (39ページ)
- ランダムモード (30ページ) → スキャンモード (30ページ)
- ITS再生モード (33ページ) → ポーズモード (40ページ)
- COMP切り換えモード (41ページ) → リピートモードに戻る



- ・ ファンクションモードを解除するには、BAND ボタンを押します。(約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)

■ 詳細設定モードの切り換え

1 FUNCTION ボタンを2秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

- タイトル入力モード (35ページ) → ITS入力モード (32ページ)
- タイトル入力モードに戻る



- ・ 詳細設定モードを解除するには、BAND ボタンを押します。
- ・ 「CD TEXT」に対応しているマルチ CD (「CDX-P670」など) で「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードに切り換わりません。(「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルは変更できません。)

同じ曲や CD を繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞いたり、1 枚の CD を繰り返し聞くなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲 (繰り返し聞く範囲) は、次の中から選ぶことができます。

再生範囲	リピート再生の内容
トラックリピート	再生中の曲を繰り返し再生します。
ディスクリピート	再生中の CD を繰り返し再生します。
マルチ CD リピート	マルチ CD に入っている全ての CD を通して再生します。(通常はこのモードにしておきます。)

1 FUNCTION ボタンを押して、リピートモードを選ぶ



2 ◀または▶ ボタンを押して、再生範囲を切り換える

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

MCD (マルチ CD リピート) → TRK (トラックリピート) → DSC (ディスクリピート) → MCD に戻る



3 BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

トラックリピートのときに表示されます。



いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲をマルチCDにまかせて、いつもと違う曲順(ランダム)で再生することができます。

1 リピートモードにして、再生範囲を選ぶ (29ページ)

選んだ再生範囲内で、ランダム再生が行われます。

2 FUNCTION ボタンを押して、ランダム モードを選ぶ



3 ▲ ボタンを押して、ランダム再生を ON に する

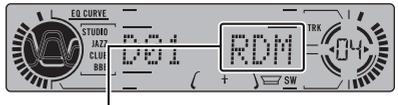
次の曲から、ランダムに再生されます。

▼ ボタンで OFF になります。



4 BAND ボタンを押して、ファンクション モードを解除する

表示	選択範囲
DRDM	ディスクリピート
RDM	マルチCDリピート



ランダム再生中に表示されます。

- トラックリピートのときに、ランダム再生を ON にすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わり、ランダム再生します。

聞きたい曲やCDを探す

スキャン再生

今聞いているCDの、曲の始めの部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。また、すべてのCDの、1曲目の始めの部分だけを次々に聞くこともできます。

1 リピートモードにして、再生範囲を選ぶ (29ページ)

■ 聞きたい曲をさがすとき

(トラックスキャン再生)

◀または▶ ボタンを押して、ディスクリピートにする

再生中のCDの全曲を、約10秒ずつ再生することができます。

■ 聞きたいCDをさがすとき

(ディスクスキャン再生)

◀または▶ ボタンを押して、マルチCDリピートにする

マルチCDのマガジン内すべてのCDの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 FUNCTION ボタンを押して、スキャンモードを選ぶ



3 ▲ ボタンを押して、スキャン再生をONにする

曲の始めの約10秒間が次々に再生されます。

- スキャン再生を始めて約30秒たつと、自動的にファンクションモードが解除されます。

表示	選択範囲
DSCN	ディスクリピート
SCAN	マルチCDリピート



スキャン再生中に表示されます。

4 聞きたい曲 (CD) が再生されたら、スキャンモードにしてから、▼ ボタンを押して、スキャン再生をOFFにする

- ファンクションモードが解除されていたら、手順2の操作を行ってもう一度スキャンモードにしてから、スキャン再生をOFFにしてください。



5 BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

- ・ スキャン再生を始めた曲 (またはCD) まで戻るとスキャン再生は解除されます。
- ・ トラックリピートのときに、スキャン再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わり、スキャン再生します。

聞きたい曲だけ記憶させておく

ITS 記憶

記憶させた曲だけ再生する (33 ページ) ために、あらかじめ聞きたい曲をマルチ CD に記憶させておきます。

ITS について

ITSとは、Instant Track Selection (インスタントトラック セレクション) の略です。ITSは、聞きたい曲だけを記憶させておき、それを再生する (33 ページ) 機能です。

- 曲の記憶はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、そのCDの記憶は消えません。
- CD1枚につき99曲まで記憶することができます。(「CDX-P1250」「CDX-P650」以前に発売されたマルチCDでは、記憶できる曲が24曲目までになります。)
- ITSは、タイトル (35 ページ) と合わせてCD100枚分の記憶ができます。
- 100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されません。

- 1** ▲ または ▼ ボタンを押して、記憶させたい CD を再生する (26 ページ)

- 2** FUNCTION ボタンを2秒以上押してから FUNCTION ボタンを押して、ITS 入力モードを選ぶ



- 3** ◀ または ▶ ボタンを押して、記憶させたい曲を選ぶ (27 ページ)

- 4** ▲ ボタンを押して、記憶させる



約2秒間表示され、記憶したことを知らせます。

- 5** BAND ボタンを押して、詳細設定モードを解除する

記憶させた曲だけ再生する

ITS 再生

ITS 記憶 (32 ページ) で記憶させた曲だけを再生することができます。

- 1 リピートモードにして、再生範囲を選ぶ (29 ページ)

選んだ再生範囲内で、ITS 再生が行われます。

- 2 FUNCTION ボタンを押して、ITS 再生モードを選ぶ



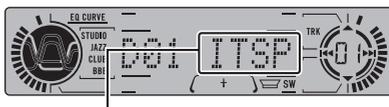
- 3 ▲ ボタンを押して、ITS 再生を ON にする

ITS 再生が始まり、記憶させた曲だけが再生されます。

▼ ボタンで OFF になります。



- 4 BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除する



ITS 再生中に表示されます。

- ・ 手順 1 で選んだ再生範囲内に、記憶させた曲がない場合は、“ITSEmpty” が約 2 秒間表示されて、ITS 再生は行われません。

記憶させた曲を 1 曲ずつ記憶から消す

ITS 消去 (1 曲ごと)

記憶させた曲を 1 曲ずつ消すことができます。

- 1 ITS 再生を ON にする

- 2 ◀ または ▶ ボタンを押して、消去したい曲を再生する (27 ページ)

- 3** FUNCTION ボタンを2秒以上押してから
FUNCTION ボタンを押して、ITS入力
モードを選ぶ



- 4** ▼ ボタンを押して、消去する

再生していた曲が記憶から消去され、次に記憶されている曲が再生されます。



次に記憶されている曲

- 5** BAND ボタンを押して、詳細設定モードを
解除する

- 現在の再生範囲内に記憶させた曲がなくなった場合は、“ITSempty” が約2秒間表示されて、ITS再生がOFFになります。

記憶させた曲をCDごとに記憶から消す

ITS消去 (CDごと)

記憶させた曲をCDごとに消すことができます。

- 1** ▲ または ▼ ボタンを押して、消去したい
CDを再生する (26 ページ)

ITS再生がONになっているときは、ITS再生をOFFにしてください。(33 ページ)

- 2** FUNCTION ボタンを2秒以上押してから
FUNCTION ボタンを押して、ITS入力
モードを選ぶ



- 3** ▼ ボタンを押して、消去する



約2秒間表示され、消去されたことを知らせます。

- 4** BAND ボタンを押して、詳細設定モードを
解除する

CDのタイトルを記憶させる

タイトル入力

CDにタイトルを入力することができます。また、入力したタイトルはディスプレイに表示させることができます。(37ページ)

タイトル入力について

タイトル入力は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。

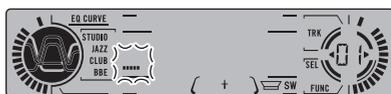
CDにタイトルをつけると、タイトルリスト(39ページ)で聞きたいCDをさがすこともできます。「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)では、「CD TEXT」にあらかじめ収録されているCDタイトルで同様にタイトルリスト(39ページ)をすることができます。

- タイトルは8文字まで入力できます。
- 記憶はCDごとに行われます。CDを入れ替えても、そのCDの記憶は消えません。
- タイトルは、ITS(32ページ)と合わせてCD100枚分の記憶ができます。
- 100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

1 ▲または▼ボタンを押して、タイトルを入力したいCDを再生する(26ページ)

2 FUNCTION ボタンを2秒以上押して、タイトル入力モードを選ぶ

- 「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)で「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードには切り換わりません。(「CD TEXT」に収録されているCDタイトルは変更できません。)



次ページへつづく

3 タイトルを入力する

■ 入力する位置を選ぶ

◀または▶ ボタンを押して、入力したい位置にカーソルを移動させる

- ▶ : 右に移動させるとき
- ◀ : 左に移動させるとき



入力する位置でカーソルが点滅します。8文字まで入力できます。

■ 入力する文字を選ぶ

▲または▼ ボタンを押して、入力したい文字を選ぶ

- ▲ : 次の文字を選ぶとき
- ▼ : 前の文字を選ぶとき



選んだ文字が点滅します。

押すボタン	選べる文字
1ボタン (1ボタンを押すごとに切り換わります。)	アルファベットの小文字 (a~z)、空白() アルファベットの大文字 (A~Z)、数字(0~9)、 記号(! " # など) 空白()
2ボタン	数字(0~9)、 記号(! " # など)、 空白()
3ボタン (3ボタンを押すごとに切り換わります。)	カタカナ(ア~ン)、 音引き(ー)、 空白() 拗促音、濁点、半濁点 (アイウエオヤユヨツ* °)、 空白()

4 入力が終わったら、▶ ボタンを押して8文字目を点滅させる



余ったところを空白にして、8文字目を点滅させます。

5 ▶ ボタンを押して、入力したタイトルを記憶させる

入力位置の点滅が終わり、入力したタイトルが記憶されます。



6 BAND ボタンを押して、詳細設定モードを解除する

- ・ タイトル入力中 (文字が点滅しているとき) に BAND ボタンを押すと、詳細設定モードが途中で解除されます。(この場合、入力中のタイトルは記憶されません。)

CDのタイトルを表示させる

ディスクタイトル表示

タイトル入力 (35 ページ) で入力したCDのタイトルを表示させることができます。

1 DISPLAY ボタンを押して、表示を切り換える

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



再生経過時間表示 → ディスクタイトル (DISC TTL) → 再生経過時間表示に戻る

- ・ タイトルが入力されていないCDで表示を切り換えると、“NO TITLE”が表示されます。

「CD TEXT」のタイトルや歌手名を表示させる

タイトル表示/タイトルスクロール

「CD TEXT」に対応しているマルチCD（「CDX-P670」など）で「CD TEXT」を再生しているときに、ディスクタイトル（ディスク名）、ディスクアーティスト（歌手名）などを表示させることができます。一度に8文字まで表示することができます。また、隠れている文字も順に表示させることができます。

・「CD TEXT」に対応しているマルチCD（「CDX-P670」など）の機能です。

「CD TEXT」について

「CD TEXT」とは、CDのタイトル/歌手名/曲名などの文字情報が収録されたCDです。ディスクタイトル面に下記マークのついているCDは、「CD TEXT」です。（下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。）

本機の「CD TEXT」文字表示は、英数字のみに対応しています。



■ 表示切り換え

1 DISPLAY ボタンを押して、表示を切り換える

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

再生経過時間表示 → ディスクタイトル (DISC TTL) → ディスクアーティストネーム (DISC ART) → トラックタイトル (TRK TTL) → トラックアーティストネーム (TRK ART) → 再生経過時間表示に戻る



■ 隠れている文字を表示する

1 DISPLAY ボタンを2秒以上押して、隠れているタイトルを表示する

隠れている文字が順に表示されます。



・トラックアーティストネーム（歌手名）などが収録されていないCDで表示を切り換えると、「NO NAME」などが表示されます。

タイトルを見て聞きたいCDをさがす

タイトルリスト

CDのタイトルから、聞きたいCDを選ぶことができます。

- 1** FUNCTION ボタンを押して、タイトルリストモードを選ぶ



- 2** ◀または▶ ボタンを押して、聞きたいCDを選ぶ

- ▶ : 次のCDのタイトルを表示させるとき
 - ◀ : 前のCDのタイトルを表示させるとき
- 記憶されているタイトルが表示されます。また、そのCDのCD番号が点滅します。



- 3** ▲ ボタンを押して、選んだCDを再生する
- 選んだCDが再生されます。



- 4** BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

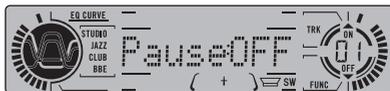
- ・ タイトルが入力されていないCDでタイトルリストを行うと、CD番号だけが表示されず。(タイトルは何も表示されません。)

CD再生を一時停止する

ポーズ

CD再生を一時停止することができます。

- 1 FUNCTION ボタンを押して、ポーズモードを選ぶ



- 2 ▲ ボタンを押して、ポーズをONにする

CD再生が一時停止します。

▼ ボタンでOFFになります。



- 3 BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除する



一時停止中に表示されます。

CDの音質を調節する

COMP/DBE

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、低音域を押し上げたりすることができます。

・ COMP/DBE に対応しているマルチ CD (「CDX-P620S」など) の機能です。

COMP について

COMPとは、Compression (コンプレッション) の略です。大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞きとりにくいようなときにお使いになると便利です。

DBE について

DBEとは、Dynamic Bass Emphasis (ダイナミック バス エンファシス) の略です。DBEは、車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。

1 FUNCTION ボタンを押して、COMP 切り換えモードを選ぶ

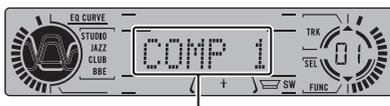
現在の COMP/DBE の状態が表示されます。

- COMP/DBE 機能のないマルチ CD を組み合わせたときは、“NO COMP” が表示され、操作ができません。



2 ▲または▼ボタンを押して、機能を選ぶ

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



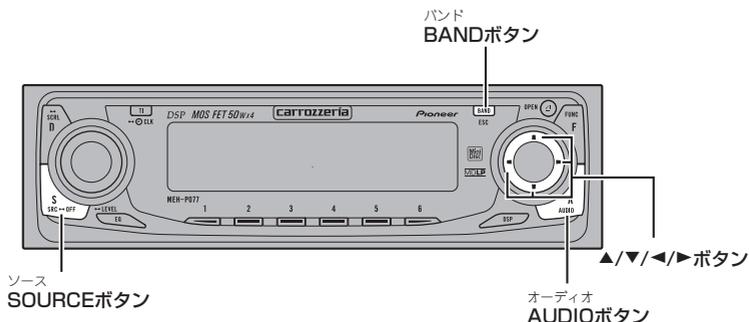
現在の COMP/DBE の状態が表示されます。

COMP OFF → COMP1 (コンプレッション 1) → COMP2 (コンプレッション 2)
→ COMP OFF → DBE1 → DBE2 → 最初の COMP OFF に戻る

3 BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

・ COMP、DBE ともに 1 より 2 の方が効果が大きくなります。

音を調節する



調節モードの切り換えかた

音を調節するときは、オーディオ調節モードを切り換えて操作します。RCA 外部出力の設定 (66 ページ) により、モードの切り換わり方が変わります。

■ RCA 外部出力がサブウーファー出力 “P/O :S/W” のとき

1 AUDIO ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



- 音量バランス調節モード (44 ページ) → ラウドネスモード (44 ページ)
- サブウーファーモード (45 ページ) → サブウーファー調節モード*¹ (45 ページ)
- サブウーファースロープ調節モード*¹ (45 ページ)
- ハイパスフィルターモード (フロント) (47 ページ)
- ハイパスフィルタースロープ調節モード (フロント)*² (47 ページ)
- ハイパスフィルターモード (リア) (47 ページ)
- ハイパスフィルタースロープ調節モード (リア)*³ (47 ページ)
- 音量バランス調節モードに戻る

・ オーディオ調節モードを解除するには、BAND ボタンを押します。(約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)

*¹ サブウーファーモード (45 ページ) を OFF にした場合は、サブウーファー調節モード、サブウーファースロープ調節モードには切り換わりません。

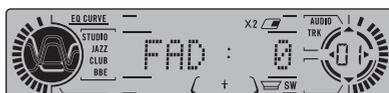
*² ハイパスフィルターモード (フロント) (47 ページ) を OFF にした場合は、ハイパスフィルタースロープ調節モード (フロント) には切り換わりません。

*³ ハイパスフィルターモード (リア) (47 ページ) を OFF にした場合は、ハイパスフィルタースロープ調節モード (リア) には切り換わりません。

■ RCA外部出力がノンフェーディング出力“P/O:FUL”のとき

1 AUDIO ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



- 音量バランス調節モード (44 ページ) → ラウドネスモード (44 ページ)
- ノンフェーディングモード (49 ページ)
- ノンフェーディング調節モード*⁴ (49 ページ)
- ハイパスフィルターモード (フロント) (47 ページ)
- ハイパスフィルタースロープ調節モード (フロント)*² (47 ページ)
- ハイパスフィルターモード (リア) (47 ページ)
- ハイパスフィルタースロープ調節モード (リア)*³ (47 ページ)
- 音量バランス調節モードに戻る

- ・ オーディオ調節モードを解除するには、BAND ボタンを押します。(約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)
- *² ハイパスフィルターモード (フロント) (47 ページ) を OFF にした場合は、ハイパスフィルタースロープ調節モード (フロント) には切り換わりません。
- *³ ハイパスフィルターモード (リア) (47 ページ) を OFF にした場合は、ハイパスフィルタースロープ調節モード (リア) には切り換わりません。
- *⁴ ノンフェーディングモード (49 ページ) を OFF にした場合は、ノンフェーディング調節モードには切り換わりません。

前後左右の音量バランスを調節する

フェーダー/バランス

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

- 1** AUDIO ボタンを押して、音量バランス調節モードを選ぶ



- 2** ▲または▼ボタンを押して、前後の音量バランスを調節する

- ▲：前を強めるとき
- ▼：後ろを強めるとき



前後のバランスは、F25~R25 の範囲で調節できます。

- 3** ◀または▶ボタンを押して、左右の音量バランスを調節する

- ▶：右を強めるとき
- ◀：左を強めるとき



左右のバランスは、L25~R25 の範囲で調節できます。

- 4** BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

小音量時の音にメリハリをつける

ラウドネス

小さな音量で聞いているときの、低・高音の不足感を補正して、メリハリのある音にすることができます。

- 1** AUDIO ボタンを押して、ラウドネスモードを選ぶ



- 2** ▲ボタンを押して、ラウドネスをONにする

- ▼ボタンでOFFになります。



ラウドネスがONのときに表示されます。

- B** BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

サブウーファーを使う

サブウーファー

本機では、RCA 出力端子に接続したサブウーファーの調節を行うことができます。（この機能は初期設定でONになっています。）

位相切り換えについて

サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。

車内条件により、これらの音の位相どうしが反転（干渉）すると、その周波数帯域が打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐものが、サブウーファーの位相切り換えです。

車内条件によって、位相の正相（フロント/リアスピーカーと同時に出力される）が良いか、逆相（フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される）が良いかを選んで設定してください。

カットオフ周波数について

50、63、80、100、125 (Hz) から選んだ周波数以下の音域がサブウーファーから出力されます。

- 1** AUDIO ボタンを押して、サブウーファーモードを選ぶ



- 2** ▲ ボタンを押して、サブウーファーをONにする

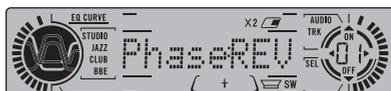
▼ ボタンでOFFになります。



- 3** ◀ または ▶ ボタンを押して、位相を切り換える

▶ : NOR (正相) を選ぶとき

◀ : REV (逆相) を選ぶとき



- 4** AUDIO ボタンを押して、サブウーファー調節モードを選ぶ



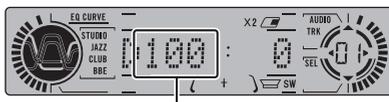
5 カットオフ周波数とレベルを調節する

■ 周波数を選ぶ

◀または▶ ボタンを押して、周波数を選ぶ

▶ : 高い周波数を選ぶとき

◀ : 低い周波数を選ぶとき



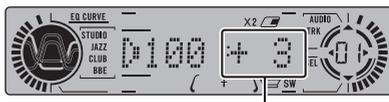
50、63、80、100、125 (Hz)
の中から選ぶことができます。

■ レベルを調節する

▲または▼ ボタンを押して、レベルを調節する

▲ : レベルを大きくするとき

▼ : レベルを小さくするとき



−24~+6の範囲で調節できます。

6 AUDIO ボタンを押して、サブウーファースロープ調節モードを選ぶ



7 ◀または▶ ボタンを押して、スロープを切り換える

▶ : 18 dB (18 dB/oct.)

◀ : 12dB (12 dB/oct.)



8 BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ RCA 外部出力の設定 (66 ページ) をノンフェーディングにした場合は、サブウーファースロープ調節はできません。
- ・ サブウーファー機能を OFF にした場合は、サブウーファー調節モード、サブウーファースロープ調節モードには切り換わりません。

低い音をスピーカーから出力させないようにする

ハイパスフィルター (HPF)

本機では、リアスピーカー端子または、RCA 出力端子に接続したサブウーファーの調節を行うことができます。(この機能は初期設定でONになっています。)

ハイパスフィルター (HPF) について

ハイパスフィルターは、設定した周波数から下の音域 (低域) をカットして、高域を通すフィルターです。ハイパスフィルターをONにすることにより、サブウーファーとの音のつながりを調節することができます。

フロントスピーカーとリアスピーカーで別々に調節することができます。

カットオフ周波数について

50、63、80、100、125 (Hz) から選んだ周波数より高い音域が各スピーカーから出力されます。

スロープについて

スロープ (減衰の傾き) を調節することにより、サブウーファーとフロント/リアスピーカーの音のつながりを調整することができます。

1 AUDIO ボタンを押して、ハイパスフィルターモードを選ぶ



2 ▲ ボタンを押して、ハイパスフィルターをONにする

▼ ボタンでOFFになります。



3 ◀または▶ ボタンを押して、カットオフ周波数を選ぶ

▶ : 高い周波数を選ぶとき

◀ : 低い周波数を選ぶとき

選んだ周波数より高い周波数の音だけが、各スピーカーから出力されます。



50、63、80、100、125 (Hz) の中から選ぶことができます。

次ページへつづく

4 AUDIO ボタンを押して、ハイパスフィルタースロープ調節モードを選ぶ

F-SLP : フロントスピーカーを調節するとき

R-SLP : リアスピーカーを調節するとき



5 ◀または▶ ボタンを押して、スロープを調節する

▶ : 6 dB (6 dB/oct.)

◀ : 12 dB (12 dB/oct.)



6 BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ ハイパスフィルター機能を OFF にした場合は、ハイパスフィルタースロープ調節モードには切り換わりません。

外部アンプなどでサブウーファーを調節する

ノンフェーディング

本機のローパスフィルター（サブウーファー）を通さずに、原音のままRCA出力から音声信号を出力することができます。また、その出力レベルを調節することもできます。

- 1** AUDIO ボタンを押して、ノンフェーディングモードを選ぶ



- 2** ▲ ボタンを押して、ノンフェーディングをONにする

▼ ボタンでOFFになります。



- 3** AUDIO ボタンを押して、ノンフェーディング調節モードを選ぶ



- 4** ▲ または ▼ ボタンを押して、レベルを調節する

▲ : レベルを大きくするとき

▼ : レベルを小さくするとき



— 24~+6 の範囲で調節できます。

- 5** BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ RCA 外部出力の設定 (66 ページ) をサブウーファーにした場合は、ノンフェーディングの調節はできません。
- ・ ノンフェーディングをOFFにした場合は、ノンフェーディング調節モードには切り換わりません。

各ソースの音量の違いをそろえる

SLA

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量の違いをそろえることができます。

1 SOURCE ボタンを押して、FMを受信し、FMの音量を確かめる (20 ページ)

2 SOURCE ボタンを押して、調節したいソースに切り換える (10 ページ)

3 AUDIO ボタンを2秒以上押して、SLAモードを選ぶ



4 ▲または▼ボタンを押して、レベルを調節する

- ▲ : レベルを大きくするとき
- ▼ : レベルを小さくするとき

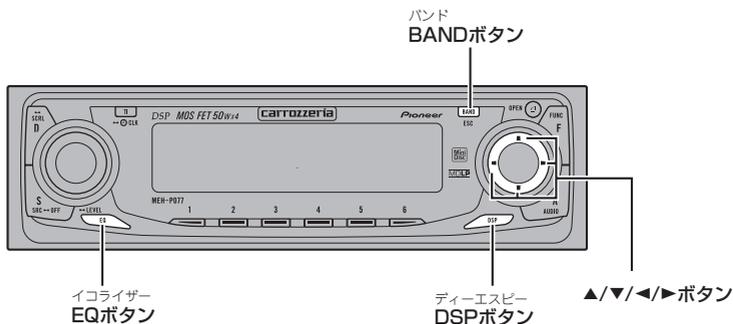


— 4 ~ + 4 の範囲で調節できます。

5 BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ SLAとはSource Level Adjuster (ソースレベルアジャスター) の略です。
- ・ FMの音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FMを聞いているときは、SLAモードに切り換えることはできません。
- ・ AM、テレビ、MD、CD、External (エクスターナルユニット)、AUX (外部機器) のそれぞれの音量差を調節することができます。なお、1枚型CDとマルチCD、External1とExternal2、およびAMと交通情報 (61 ページ) は同じ設定になります。

音場と音質を調節する



モードの切り換えかた

DSPの機能を使って音場と音質を調節するときは、DSP調節モードに切り換えて操作します。

1 DSP ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



- SFCモード (52ページ) → グラフィックイコライザーモード (55ページ)
- イコライザー調節モード (56ページ)
- リスニングポジションセレクターモード (58ページ) → ASLモード (59ページ)
- SFCモードに戻る

- ・ DSP調節モードを解除するには、BANDボタンを押します。(約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)

イメージに合った演奏会場を再現する

SFC/BBE

SFCで実際にその演奏会場にいるかのようなリアルな音場を再現することができます。また、BBEではレベルの調節をすることができます。

SFCについて

SFCとはSound Field Control (サウンド フィールド コントロール) の略です。SFCは、車室内にリアルな音場を再現することができます。StudioやCLUBなど、3つの音場空間を再現するプログラムが用意されています。

BBEについて

BBEは、音楽再生時に発生する高調波成分の遅延、振幅の狂いを位相補正と高域ブーストを組み合わせて修復することで、極めて原音に近い再生音にすることができます。このため、鮮明度が高く、ライブ演奏に近い自然な臨場感を再現することができます。

1 DSP ボタンを押して、SFCモードを選ぶ



2 ◀または▶ ボタンを押して、音場プログラムを呼び出す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

SFC OFF → Studio → JazzClub → CLUB → BBE → SFC OFFに戻る



音場プログラムを選ぶと表示されます。

3 BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除する

■ 手順2でBBEを選んだとき

3 ▲または▼ ボタンを押して、BBEのレベルを調節する

▲：レベルを大きくするとき

▼：レベルを小さくするとき



-4~+4の範囲で調節できます。

4 BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除する

・この製品はBBEサウンド・インコーポレーテッドからの実施権に基づき製造されています。この製品は米国BBE社の所有する特許USP4638258と4482866を使用しています。BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc. の登録商標です。

イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを調節することで、好みの音質をつくることができます。

CTM (CUSTOM)について

“CTM (CUSTOM)”には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。(1枚型CDとマルチCD、およびエクスターナル1とエクスターナル2は、同じ設定になります。)イコライザーカーブを調節すると、“CTM (CUSTOM)”に記憶されます。

FLATについて

イコライザーによる音の補正はされていません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えることで、設定したイコライザーカーブの効果を確認することができます。

■ EQ ボタンで選ぶとき

1 EQ ボタンを押して、イコライザーカーブを切り換える

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

POWERFUL → NATURAL → VOCAL → CUSTOM 1 → CUSTOM 2 → FLAT
→ SPR-BASS (SUPER-BASS) → POWERFUL に戻る



■ DSP 調節モードで選ぶとき

1 DSP ボタンを押して、グラフィックイコライザーモードを選ぶ



2 ◀または▶ ボタンを押して、イコライザーカーブを呼び出す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

PWRFL ↔ NTRL ↔ VOCAL ↔ CTM1 ↔ CTM2 ↔ FLAT
↔ S-Bas (SUPER-BASS)



3 BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除する

イコライザーカーブを大まかに補正する

ニュアンスコントロール

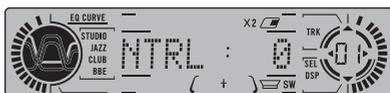
呼び出したイコライザーカーブは、全体的なバランスはくずさずに、大まかに強めたり弱めたりすることができます。

- 1 DSP ボタンを押して、グラフィックイコライザーモードを選ぶ



- 2 ◀または▶ ボタンを押して、補正したいイコライザーカーブを呼び出す

- FLAT および、すべての周波数が“0”に設定されている CTM1 (CUSTOM 1)、CTM2 (CUSTOM 2) を補正することはできません。



- 3 ▲または▼ ボタンを押して、イコライザーカーブを補正する

▲：効果を強めるとき

▼：効果を弱めるとき

- S-Bas (SUPER-BASS) と CTM1 (CUSTOM 1)、CTM2 (CUSTOM 2) は -6 ~ +6 の範囲で調節できます。ただし、CTM (CUSTOM) に記憶されているカーブによっては、調節できる範囲が狭くなることがあります。



-5 ~ +6 の範囲で調節できます。

- 4 BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除する

イコライザーカーブを細かく調節する

イコライザー調節

お好みに合わせてイコライザーカーブの周波数レベルを細かく調節することができます。調節した内容は自動的に記憶されます。

CTM1 (CUSTOM 1) について

“CTM1 (CUSTOM 1)”には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。(1枚型CDとマルチCD、およびエクスターナル1とエクスターナル2は同じ設定になります。) また、一度も調節をしていないソースでは、最後に他のソースで調節した内容が呼び出されます。

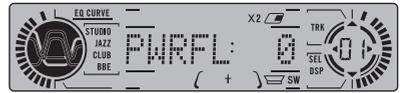
“CTM2 (CUSTOM 2)”以外のカーブを選んでいるときに調節すると、調整したカーブが“CTM1 (CUSTOM 1)”に記憶されます。

CTM2 (CUSTOM 2) について

“CTM2 (CUSTOM 2)”は、すべてのソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節することができます。

“CTM2 (CUSTOM 2)”を選んでいるときに調節すると、調節したカーブが新しい“CTM2 (CUSTOM 2)”として記憶されます。

1 DSP ボタンを押して、グラフィックイコライザーモードを選ぶ



2 ◀または▶ ボタンを押して、補正したいイコライザーカーブを呼び出す



3 DSP ボタンを押して、イコライザー調節モードを選ぶ

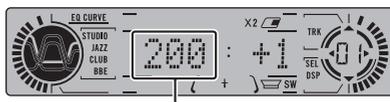


4 各周波数ごとのレベルを調節する

■ 周波数を選ぶ

◀または▶ ボタンを押して、周波数を選ぶ

- ▶ : 高い周波数を選ぶとき
- ◀ : 低い周波数を選ぶとき



50、100、200、400、800、1.6k、3.15k、6.3k、12.5k (Hz) の中から選ぶことができます。

■ レベルを調節する

▲または▼ ボタンを押して、レベルを調節する

- ▲ : レベルを大きくするとき
- ▼ : レベルを小さくするとき



イコライザーカーブを調節すると、 $-6 \sim +6$ の範囲で調節できます。点灯します。

5 BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除する

音場の中心で聞く

リスニングポジションセレクター

乗車位置や人数に合わせて、聞く位置を選ぶことができます。

リスニングポジションセレクターについて

リスニングポジションセレクターは、座席位置や人数に合わせて、自動的に各スピーカーから出る音の遅延時間とレベルが調節される機能です。この機能により、どの座席位置でも自然な音響特性が得られます。



乗車位置について



Front-R

Front-L

Front

All

表示	乗車位置
Front-R	右ハンドル車に運転者だけがいるとき
Front-L	左ハンドル車に運転者だけがいるとき
Front	同乗者が助手席にいるとき
All	同乗者が後部座席にいるとき

1 DSP ボタンを押して、リスニングポジションセレクターモードを選ぶ



2 ▲、▼、◀、▶ ボタンを押して、乗車位置を選ぶ

- ▶ : Front-R
- ◀ : Front-L
- ▲ : Front
- ▼ : All



3 BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除する

- ・ リスニングポジションごとに、音量バランス (44 ページ) を記憶させることができます。

騒音に合わせて音量を変える

ASL

騒音に合わせて、自動的に音量が変わるようにすることができます。

ASL について

ASL とは、Automatic Sound Levelizer (オートマチック サウンド レベライザー) の略です。

ASL は、走行速度や道路状況によって変化する車内の騒音を検出して、騒音が大きくなると自動的に音量を大きくする機能です。

1 DSP ボタンを押して、ASL モードを選ぶ



2 ▲ ボタンを押して、ASL を ON にする

- ▼ ボタンで OFF になります。



ASL が ON のとき表示されます。

3 ◀または▶ ボタンを押して、ASL の感度を選ぶ

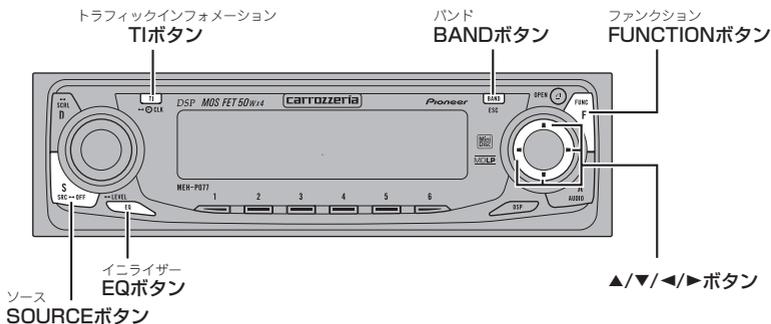


LOW、MidL、MID、MidH、HIGH の中から選ぶことができます。

4 BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除する

- ・ 音量が十分にあるときは、騒音が大きくても、音量の上げ幅は小さくなります。
- ・ この機能が動いて音量が上がりすぎたとき、音が歪むことがあります。そのときは VOLUME で音量を下げてください。

その他の機能



瞬時に音量を小さくする

アッテネーター

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を小さくすることができます。

1 リモコンのATT ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。

アッテネーターが ON のときは、音量が約 1/10 になります。



アッテネーターが ON のときに点滅します。

時計を表示させる

時計表示

本機の電源の ON/OFF にかかわらず、時計を表示させることができます。

1 TI ボタンを 2 秒以上押して、時計を選ぶ

ボタンを 2 秒以上押すごとに ON/OFF します。



- ・ 本体の電源が ON の場合は、時計表示のときに他の操作をすると、時計表示は一度解除されますが、約 25 秒後にもとの表示に戻ります。
- ・ 時計を合わせるには (63 ページ)

交通情報を受信する

トラフィックインフォメーション

AM 1,620 kHzまたは 1,629 kHzの交通情報を、簡単に受信することができます。

1 TI ボタンを押して、交通情報を受信する

AM 1,620 kHzの交通情報を受信します。



2 ◀または▶ ボタンを押して、周波数を切り換える

▶ : 1,629 kHzにするとき

◀ : 1,620 kHzにするとき



受信周波数

3 TI ボタンを押して、交通情報の受信をやめる

交通情報を受信する前の状態に戻ります。



- ・ この機能は、電源がOFFのときでも、どのソースからでも操作できます。
- ・ 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定することができます。
- ・ 交通情報を受信すると、SFC (52ページ) がOFFになり、イコライザーカーブは交通情報用になります。交通情報の受信をやめるとSFCおよびイコライザーカーブは、もとの状態に戻ります。

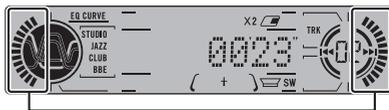
レベルインジケータを切り換える

レベルインジケータ

ディスプレイ両端のレベルインジケータの表示方法を切り換えることができます。

1 EQ ボタンを2秒以上押して、レベルインジケータを切り換える

2秒以上押すごとに、次のように切り換わります。



レベルインジケータ

レベルインジケータ 1 →レベルインジケータ 2 →レベルインジケータ全点灯
→ASL 効果量表示* →レベルインジケータ OFF →レベルインジケータ 1 に戻る

* ASL 効果量表示は、ASL (59 ページ) が ON のときに表示されます。

初期設定モードの切り換えかた

外部機器やディママーの設定をするときは、初期設定モードを切り換えて操作します。

1 SOURCE ボタンを1秒以上押して、電源をOFFにする

2 電源がOFFのときにFUNCTION ボタンを2秒以上押して、初期設定モードにする
初期設定モードに切り換わります。



3 FUNCTION ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

- 時計調節モード (63 ページ) → AUX モード (64 ページ)
- ディママーモード (65 ページ) → RCA 外部出力モード (66 ページ)
- デジタルアッテネーターモード (66 ページ)
- ミュート/アッテネートモード (67 ページ)
- 時計調節モードに戻る

- ・ 初期設定モードを解除するには、BAND ボタンを押します。(解除すると、電源がOFFになります。)

時計を合わせる

時計合わせ

時計を合わせることができます。

1 電源がOFFのときにFUNCTION ボタンを2秒以上押して、時計調節モードを選ぶ



次ページへつづく

2 時計の設定をする

■ 時または分を選ぶ

◀または▶ ボタンを押して、時または分を選ぶ

押すごとに、時または分が切り換わります。



■ 時刻を合わせる

▲または▼ ボタンを押して、時刻を合わせる

▲ : 時刻を進めるとき

▼ : 時刻を戻すとき

- 時または分を調節すると、0秒からカウントが始まります。



3 BAND ボタンを押して、初期設定モードを解除する

外部機器の音声を聞く

AUX (外部機器) の設定

本機に DAT や VTR などの外部機器を接続すると、その音声を聞くことができます。

外部機器との接続について

別売の RCA/IP-BUS インターコネクター「CD-RB20」または「CD-RB10」を使うと、RCA 出力のある DAT や VTR を、外部機器として本機に接続することができます。詳しくは、RCA/IP-BUS インターコネクターの説明書をご覧ください。

1 電源が OFF のときに FUNCTION ボタンを 2 秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押して、AUX モードを選ぶ



2 ▲ ボタンを押して、AUX を ON にする

▼ ボタンで OFF になります。



3 SOURCE ボタンを押して、ソースを AUX にする

ソースを AUX に切り換えると、外部機器の音声が出力されます。



外部機器の名称を入力する

接続した外部機器の名称を入力することができます。

- 1 SOURCE ボタンを押して、ソースを AUX にする



- 2 FUNCTION ボタンを2秒以上押して、外部機器の名称入力モードにする



- 3 外部機器の名称を入力し、記憶させる

CD タイトル入力 (35 ページ) の手順3~6を参照し、同様の操作で外部機器の名称を記憶させてください。

- “AUX” の表示のかわりに、入力した名称が表示されます。

例) “DAT” を入力した場合



夜間のディスプレイの明るさを切り換える

ディマー

夜間、周囲が暗くなったときにディスプレイがまぶしくならないように、車のライトを ON にするとディマーが働き、ディスプレイが暗くなるように設定できます。

- 1 電源が OFF のときに FUNCTION ボタンを2秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押して、ディマーモードを選ぶ



- 2 ▲ ボタンを押して、ディマーを ON にする
▼ ボタンで OFF になります。



- 3 BAND ボタンを押して、初期設定モードを解除する

RCA 外部出力から出力される信号を選ぶ

本機の RCA 外部出力に外部アンプを接続してサブウーファーを使用する場合、本機でサブウーファーを調節するか、外部アンプでサブウーファーを調節するために原音のまま出力するかを選ぶことができます。

- 1 電源が OFF のときに FUNCTION ボタンを 2 秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押して、RCA 外部出力モードを選ぶ



- 2 ◀または▶ ボタンを押して、出力方法を設定する

- ▶ : (FUL) 原音のまま出力するとき (フルレンジ出力)
- ◀ : (S/W) 本機でサブウーファーを調節するとき (サブウーファー出力)



- 3 BAND ボタンを押して、初期設定モードを解除する

- ・ 出力方法を“FUL”に設定したときは、ノンフェーディングの設定 (49 ページ) をしてください。
- ・ 出力方法を“S/W”に設定したときは、サブウーファーの設定 (45 ページ) をしてください。

音の歪みを補正する

デジタルアッテネーター

イコライザーカーブの調節 (56 ページ) による音の歪みをなくすことができます。

- 1 電源が OFF のときに FUNCTION ボタンを 2 秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押して、デジタルアッテネーターモードを選ぶ



2 ◀または▶ ボタンを押して、設定を選ぶ

- ▶ : HIを選ぶとき
- ◀ : LOWを選ぶとき



3 BAND ボタンを押して、初期設定モードを解除する

ミュート/アッテネートを切り換える

ミュート/アッテネート設定

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときに、本機の音声をミュートするかアッテネートするかを選ぶことができます。

ミュート/アッテネート機能について

ミュート機能のあるパイオニア製ナビゲーションユニットと本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているときだけ、ミュートまたはアッテネート機能が働きます。ミュート信号を受け取っているときの各設定の音量は、次のようになります。

- Mute : 音量 "0"
- 10dB ATT : もとの音量の約 1/3
- 20dB ATT : もとの音量の約 1/10

ミュートまたはアッテネート機能が解除されると、自動的にもとの音量に戻ります。

1 電源がOFFのときにFUNCTION ボタンを2秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押して、ミュート/アッテネートモードを選ぶ



2 ◀または▶ ボタンを押して、設定を選ぶ

Mute、10 dB ATT、20 dB ATTの中から選ぶことができます。



3 BAND ボタンを押して、初期設定モードを解除する

MDの正しい使いかた

■ 使用できるMDについて

- 下記マークの付いているMD（ミニディスク）をご使用ください。



- 音楽用以外のMDは使用しないでください。故障の原因になります。

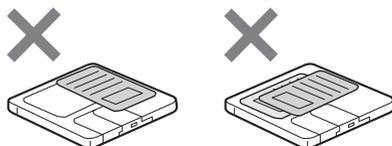
■ 取り扱い上のご注意

- MDのシャッターを手であけないでください。無理にあけるとこわれることがあります。

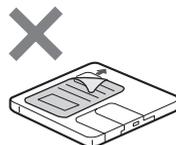


■ ラベルについて

- MDに付属のラベルは、必ず指定の位置に貼ってください。指定以外の位置に貼ったり、2枚重ねて貼ったりすると、MDが取り出せなくなることがあります。

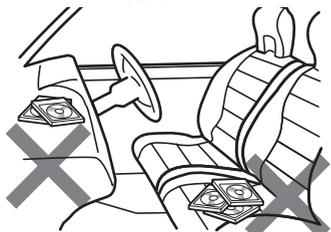


- ラベルがめくれれたり、浮いたりしたMDは使用しないでください。ラベルが引っかかり、MDが取り出せなくなります。このようなMDは新しいラベルに貼り換えてからお使いください。



■ 保管上のご注意

- MDは、直射日光の当たるところや高温になるところには、保管しないでください。



■ 寒いときの結露について

- 寒いとき、ヒーターを入れた直後にMDの再生を始めると、本機内部の光学系レンズやMDに露が付いて、正常な再生ができないことがあります。
このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。MDのカートリッジ表面に付いた露は柔らかい布で拭いてください。

■ お手入れについて

- MDのカートリッジ表面が汚れたときは、柔らかいきれいな布で軽く拭いてください。
- MDにベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



- MD用クリーニングディスクを使用するときは、クリーニングディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。
クリーニングディスクによっては製品の故障の原因になる場合があります。

故障かな?と思ったら

故障かな?と 思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。



チェックしても 直らないときは

「保証書とアフターサービス」(73ページ)をお読みになり、修理を依頼してください。

■ 共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。 (「取付説明書」参照)
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズを同じ容量のヒューズと交換してください。 (「取付説明書」参照)
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を調節してください。 (11、13、21、27ページ)
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください。 (60ページ)
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (44ページ)
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (44ページ)
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (44ページ)

■ ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。(21ページ)
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。(21ページ)
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音も少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください。(21ページ)

■ MD

症状	原因	処置
MDの再生中、大きな雑音が出る。	MDが極端に汚れている。	MDを交換してください。
MDの再生が途中で止まる。	MDにくもりや水滴が付いている。	MDを交換してください。
	録音されていないMDを挿入した。	MDを交換してください。
	MDが正しい方向に挿入されていない。	MDを取り出し、正しい方向に挿入してください。(12ページ)

こんなメッセージが表示されたら

メッセージ(エラー番号)	メッセージが表示されるとき	処置
「NO DATA」	ディスク名が入力されていないMDを再生中にディスク名表示に切り換えたとき。	ディスク名表示以外の表示に切り換えてください。(19ページ)
「NO DATA」	曲名が入力されていない曲を再生中に曲名表示に切り換えたとき。	曲名表示以外の表示に切り換えてください。(19ページ)
「TEMP」	本機の内部温度に異常があるとき。	本機が正常に動作する温度になるまでお待ちください。
「ERROR-11」「ERROR-12」 「ERROR-17」「ERROR-30」	MDが汚れているとき。 MDにキズやひびがあるとき。	他のMDと交換してください。
「ERROR-20」「ERROR-21」	振動などが原因で曲の情報を読みとれなかったとき。 MDに異常(損傷している、TOCが入っていないなど)があるとき。	MDを取り出し、もう一度入れ直してください。それでも同じメッセージが表示される場合は、他のMDと交換してください。
「ERROR-22」「ERROR-24」	MDに異常(損傷している、TOCが入っていないなど)があるとき。	他のMDと交換してください。
「ERROR-23」	音楽以外の情報が記録されたMDを使用したとき。	音楽が録音されたMDを使用してください。
「ERROR-01」「ERROR-11」 「ERROR-12」「ERROR-17」 「ERROR-30」「ERROR -A0」 「ERROR-A1」	本機の電気系、機構系の故障が考えられるとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、MD再生を一度やめて、もう一度MD再生にしてください。
「ERROR-」	MDが何らかの原因で再生しないとき。	他のMDと交換してください。
「Blank MD」	何も録音されていないMDを挿入したとき。	他のMDと交換してください。

TOCについて

- TOC (Table Of Contents) とは、CD・MD・DATなどに収録されている曲数、演奏時間、タイトルなどの音声信号以外の情報のことです。

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。（性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

おもな仕様

■ オーディオ/DSP部

- 最大出力：
50W × 4
- 定格出力：
22W × 4
(50～15,000 Hz、5 % THD)
- 負荷インピーダンス：
4 Ω (4～8 Ω 使用可能)
- プリアウト
最大出力レベル：
1.8 V
- 出カインピーダンス：
1 kΩ
- ラウドネスコンター：
10 dB (100 Hz)
7 dB (10 kHz)
(ボリューム：-30 dB)
- 9バンドグラフィックイコライザー：
周波数：50/100/200/400/800/
1.6k/3.15k/6.3k/12.5k Hz
調整幅：±12 dB
- ネットワーク：
ハイパスフィルター：
周波数：50/63/80/100/125 Hz
スロープ：-6 dB/oct.
-12 dB/oct.
- サブウーファー出力：
周波数：50/63/80/100/125 Hz
スロープ：-12 dB/oct.
-18 dB/oct.
調整幅：+6 dB～-24 dB
位相：NORMAL/REVERSE

■ MDプレーヤー部

- 形式：
ミニディスクデジタルオーディオシステム
- 使用ディスク：
ミニディスク
- 信号フォーマット：
サンプリング周波数：
44.1 kHz
量子化ビット数：
16ビット直線
- 周波数特性：
20～20,000 Hz (±1 dB)
- S/N比：
90 dB (1 kHz)
(IHF-Aネットワーク)
- ダイナミックレンジ：
90 dB (1 kHz)
- チャンネル数：
2 (ステレオ)

■ FMチューナー部

受信周波数帯域：

76.1～89.9 MHz

実用感度：

8 dBf (0.7 μ V/75 Ω 、
モノラル、S/N：30 dB)

S/N 50 dB感度：

10 dBf (0.9 μ V/75 Ω 、モノラル)

S/N：

75 dB (IHF-A ネットワーク)

高調波歪率：

0.3 % (65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ)、
0.1 % (65 dBf 入力、1 kHz、モノラル)

周波数特性：

30～15,000 Hz (\pm 3 dB)

ステレオセパレーション：

45 dB (65 dBf 入力、1 kHz)

■ AMチューナー部

受信周波数帯域：

522～1,629 kHz (9 kHz)

実用感度：

18 μ V (S/N：20 dB)

S/N：

65 dB (IHF-A ネットワーク)

■ 共通部

使用電源：

DC 14.4 V (10.8～15.1 V 使用可能)

アース方式：

マイナスアース方式

最大消費電流：

10 A

外形寸法：

(取付寸法)：

178 (W) \times 50 (H) \times 162 (D) mm

(ノーズ寸法)：

170 (W) \times 46 (H) \times 14 (D) mm

質量：

1.2 kg (コード含まず)

■ 付属品

コードユニット	： 1
取付ネジ類	： 1 式
リモートコントローラー	： 1
リチウム電池 (CR2025)	： 1
取扱説明書	： 1
取付説明書	： 1
安全上のご注意	： 1
保証書	： 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内	： 1

ドルビーラボラトリーズの米国及び外国特許に基づく許諾製品。

- ・ 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。



この説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

ご購入後の製品の修理・取り扱いのご相談は、お買い求めの販売店へお問い合わせください

- 修理のご依頼は、取扱説明書の「故障かな?と思ったら」の項目をご確認のうえ、お買い求めの販売店へご依頼ください。
- 取り付け・組み合わせなどのお問い合わせにつきましても、お買い求めの販売店へご相談・ご依頼ください。

<下記窓口へのお問い合わせ時のご注意>

市外局番「0070」で始まるフリーフォンおよび「0120」で始まるフリーダイヤルは、PHS、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。また、一般電話は携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。あらかじめご了承ください。

<安全上のご注意>

携帯電話などの走行中の使用などの禁止に関する規定が、改正道路交通法（法第71条第5号の5）にて施行されています。自動車または原動機付自転車（原付）からの、携帯電話などによる発信・応答・通話は、安全な場所に止めてからご利用ください。

製品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

● カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

〈受付〉月曜～金曜 9:30～17:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

カーオーディオ/カーナビゲーション製品のご相談窓口： **0070-800-8181-11**
03-5496-8016（一般電話）

カタログのご請求窓口： **0070-800-8181-33**
ファックス：**03-3490-5718**

バイオニアホームページでのご案内

商品に関する「よくあるお問い合わせ」FAQのご案内

<http://www.pioneer.co.jp/support/faq/index.html>

カタログ請求とメールサービス登録のご案内

<http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg/index.html>

部品のご購入についてのご相談窓口

付属品（リモコン・取扱説明書など）のご購入に関するご相談については、部品受注センターにご相談ください。

● 部品受注センター（フリーダイヤル）

〈受付〉月曜～金曜 9:30～18:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

電話： **0120-5-81095**
0538-43-1161（一般電話）

ファックス： **0120-5-81096**

ご贈答品などの修理についてのご相談窓口

修理のお問い合わせは、取扱説明書の「故障かな?と思ったら」の項目をご確認のうえお問い合わせください。ご転居されたり、ご贈答品などで、お買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、下記の修理受付センターにご相談ください。

● 修理受付センター（沖縄県を除く全国）（フリーダイヤル）

〈受付〉月曜～金曜 9:30～20:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

電話： **0120-5-81028**
03-5496-2023（一般電話）

ファックス： **0120-5-81029**

● 沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

〈受付〉月曜～金曜 9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話：**098-879-1910**（一般電話）
ファックス：**098-879-1352**

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒1-4-1

この説明書は、再生紙を使用しています。

©パイオニア株式会社 2004

< KNNZF > < 04A00000 > < CRA3605-A >